

程 沢

一九八四年六月九日

ヤブの急斜面を下って程沢へ。杉林の中に入ると、水が出てきた。右より支沢が合流した先に一〇分の滝。左の踏跡を使って下る。すぐに本流。

何もない沢だ。(記・)

「タイム」 下降開始(一五・三五) ↓
終了(一五・五〇)

岩 根 沢

一九八三年七月三一日

果樹園から岩根沢に入る。源頭は湧水で、沢幅はせまいがナメ床となっている。下降を開始してから約五分で支沢と出会う。ここから小さな滝が連続し、規模は小さいがゴルジュをなし

ている。あとはさして変化もない。砂防ダムを二つ越えると六分程の滝があり、右岸の踏跡をたどって降りると布入川の流れに出会う。あとは河原歩きをして布入へ。

(記・)

針葉の樹木②

アカマツ (マツ科)

アカマツもスギと同様、北海道を除く日本全国に分布する。ただ、摺上川流域においては、私の見た限り、このアカマツの単純林はなかった。天然混交林として、ミズナラ、クヌギ林の中に散在したところしか見えない。▼このアカマツ、今全国でどんどん枯れている。マツノザイセンチュウという線虫がマツノマダラカミキリという昆虫を媒体として伝播し、各地で異常発生しているからである。▼その勢いは、年々増加するばかり。いくら防除しても、防ぎようがないくらいである。(大西)

「タイム」 下降開始(一一〇五) ↓

終了(一二二二〇) ↓ 布入(一二二)

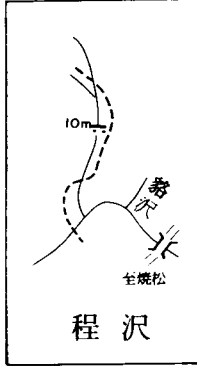
四〇)

茂庭沢上流部

上
一九八二年五月二三日

カツラ沢の遡行終了後、小沢を下
降して林道に出、この林道をそのま
ま県境まで歩いてから、茂庭沢の下
降に移る。林道は、少し広くなった
所から先が廢道化していた。

沢に入ると、すぐに水が出てきた。
少し下ると二俣となり、その下に小
滝がある。二詰。右岸の木を使って



沢程

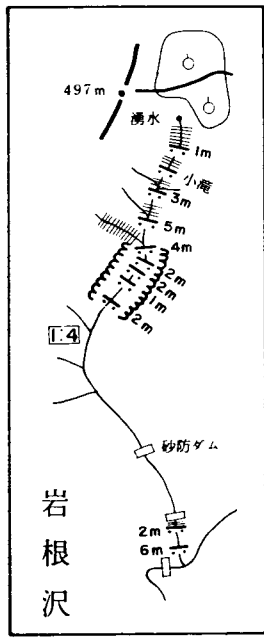
クライミングダウン。しばらくする
と、F10二・五詰。左岸を下降する。

右岸に林道の広くなっている所の
ガレ場が見えている。一詰に満たな
い滝が四つ連続して現れ、その先で
右岸より小沢が合流する。この小沢、
本流より水量が

多い。三倍もあ
る。

このすぐ下左
岸には、トンネ
ルの跡らしいも
のがあり、ト口

ツコの残骸もあって、レールも残っ
ていた。昔、このあたり一帯には大
小の金や銀の鉱山があったそうであ
る。有名なのは半田銀山であるが、
ここのもその一つであったのだらう。
小休止後、再び歩きます。しばら
くするとF8一〇詰が出てくる。下
はゴルジュ状。左岸を捲いて降りる。
ここらあたりからが核心部で、F7
四詰は左岸をクライミングダウン。
次のF6四詰も、左岸をクライミン
グダウンする。F5三段滝、F4五
詰と越える。このあたり小沢が次々



岩根沢